

平成30年 11月市長定例記者会見

日時：平成30年10月29日（月） 午後1時30分～午後2時

場所：射水市役所会議室302

報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、読売新聞、北日本放送、チューリップテレビ、庄東タイムス、ホットライン KOSUGI

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、企画管理部次長、未来創造課長（司会）、財政課長、学校教育課長、地域振興・文化課長

### 質疑応答の概要

Q1. 平成31年度予算編成方針について。「積極型」か「メリハリ抑制型」か市長の考えとその理由を伺いたい。

A1. 平成31年度予算は、一般財源の確保が非常に厳しい状況に置かれる。財政についても、将来的に考えると厳しい場面が想定される。その中でも、未来世代に選ばれるまちづくりに向けた取組を行いたいと考えている。そのため、メリハリをつけながらも必要な取組については積極的に実施していきたい。

Q2. 平成31年度予算編成について。まず、一般会計規模について、今年の当初予算規模と比べてどのような数値になるのか。次に、マイナス5%シーリングについて、昨年は中・後期実施計画を除外した5%シーリングだったと思うが、今回はすべからくということになる。そのねらいや市長の考えを伺いたい。

A2. 予算の規模について、今後精査していくが概ね430億円程度になると考えている。消費税率の引き上げに関連した例えば幼児教育の無償化などの施策を除いた形で見込んでいる。国の補正予算の動きによっては、小学校普通教室の空調設備の前倒しも考えており、これによっては少し規模が動く可能性もある。総合計画の実施計画に掲げた事業に対するマイナス5%シーリングについて、一般財源の確保がこれまで以上に厳しい状況が想定される一方で大型プロジェクトの推進が予定されていることから、今年度を上回る財源不足が生じると捉えている。中・後期実施計画に掲げた事業は、掲げてあるから行うのではなく社会情勢の変化や市民のニーズを捉えながら、また事業の実施に当たっては、新たな技術の導入や

新たな民間(パートナー)との連携などによる更なる効果的な実施の方法なども想定し、事業の効果・必要性を十分に検証した上で行っていきたい。そういった思いを含め、政策的経費について5%シーリングを設定した。

Q 3 . 数字から見ると積極型のように見受けられるが、現在の見積りの段階でどの程度の財源不足が考えられているのか。また、どのように補っていくのか。一例として、ネーミングライツ等でこのような動き、話があるということはあるのか。

A 3 . 現時点の見通しでは、約8億円の財源不足を見込んでいる。具体的な話があるわけではないが、全国の取組事例など参考にしながら、例えば福祉施設や公園といったいろいろなインフラ資産で新たに導入できる施設があるかどうか検討していきたい。こうした新たな財源の確保にも努めながら、その中で踏み切れない部分には基金を取り崩して充てる。

Q 4 . 先日発表されたK Y B製の免震ダンパーが射水市庁舎に使われていることについて。市長の受けとめと今後の対応について伺いたい。

A 4 . 射水市役所に使われている免震ダンパーについて、公表では不明ということである。いずれにしても許されない行為の中で早く適正を明らかにして欲しいと考える。正式な説明もまだ受けていないため、はっきり分からないことが多いが、不適合製品を出荷していた期間に出荷された製品が使われていることは間違いない。ただ、適合性は不明とされているため、施工業者である佐藤工業を通じて調査してもらっている。まず、適合の可否を早く明らかにして欲しい、また、仮に不適合ということであれば、迅速に交換して欲しいと考える。